

モーセ

聖徒たちと歩む聖書 ~29~
モーセ その3

「災いを過越す道」

出11~13章 主の過越・十番目の災い

アウトライン

	ふりかえり	
I.	最後の災いの予告	出11:1~10
II.	過越祭・除酵祭の命令	出12:1~28
	十番目の災い・打たれた初子	出12:29~30
	出エジプト	出12:31~42
	外国人の過越の適用	出12:43~51
III.	約束の地での過越祭の命令	出13:1~10
	初子の贖い	出13:11~16
	主に導かれて行くイスラエル	出13:17~22
IV.	まとめと適用	
	メシアの影である過越 主の救いの御業を覚えよう	

【今日扱う、三つの出来事】

過越祭(すぎこし)

十番目の災い

エジプト脱出

【現状を確認しよう!!】

- 岐阜県よりも広い地に、人口36万人の十勝で。
感染確認は、一ヶ月前に出た一名にとどまるが...
- 世界各地の大都市で感染爆発が発生。
東京、シンガポール、ソウルなど、
押さえ込んできた都市でも、懸念が高まる。
- 人口密度の高いところほど、危険性も高まる。
地域差はあれ、感染拡大は加速していくでしょう。
- 集っての礼拝は、つかの間のことかもしれません。
今日の恵みをしっかり味わい、礼拝しましょう。



【すべては、アブラハムから始まった】

神は、
選びに応えたアブラハムを祝福され、
土地の授与と 子孫の繁栄を告げ、
その子孫から、全人類を救いに導く
メシアが誕生することを約束された。

この「アブラハム契約」は、
アブラハムから、イサク、
そして、ヤコブへと継承された。



【アブラハム契約とは？】

聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

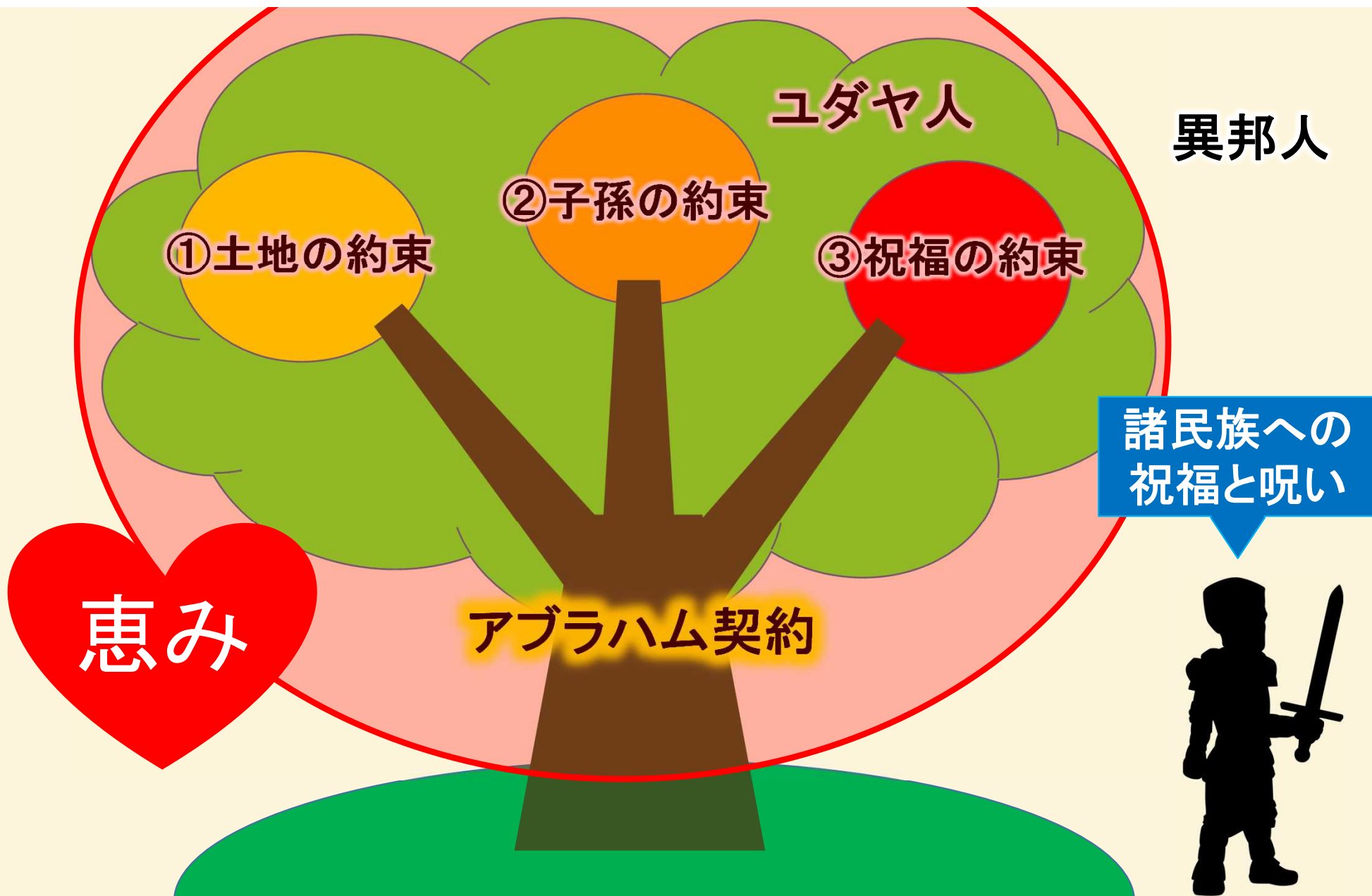
※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

※しるし ...割礼

イスラエルのエジプトでの400年も、
アブラハム契約のゆえに守られた!!



【アブラハム契約】

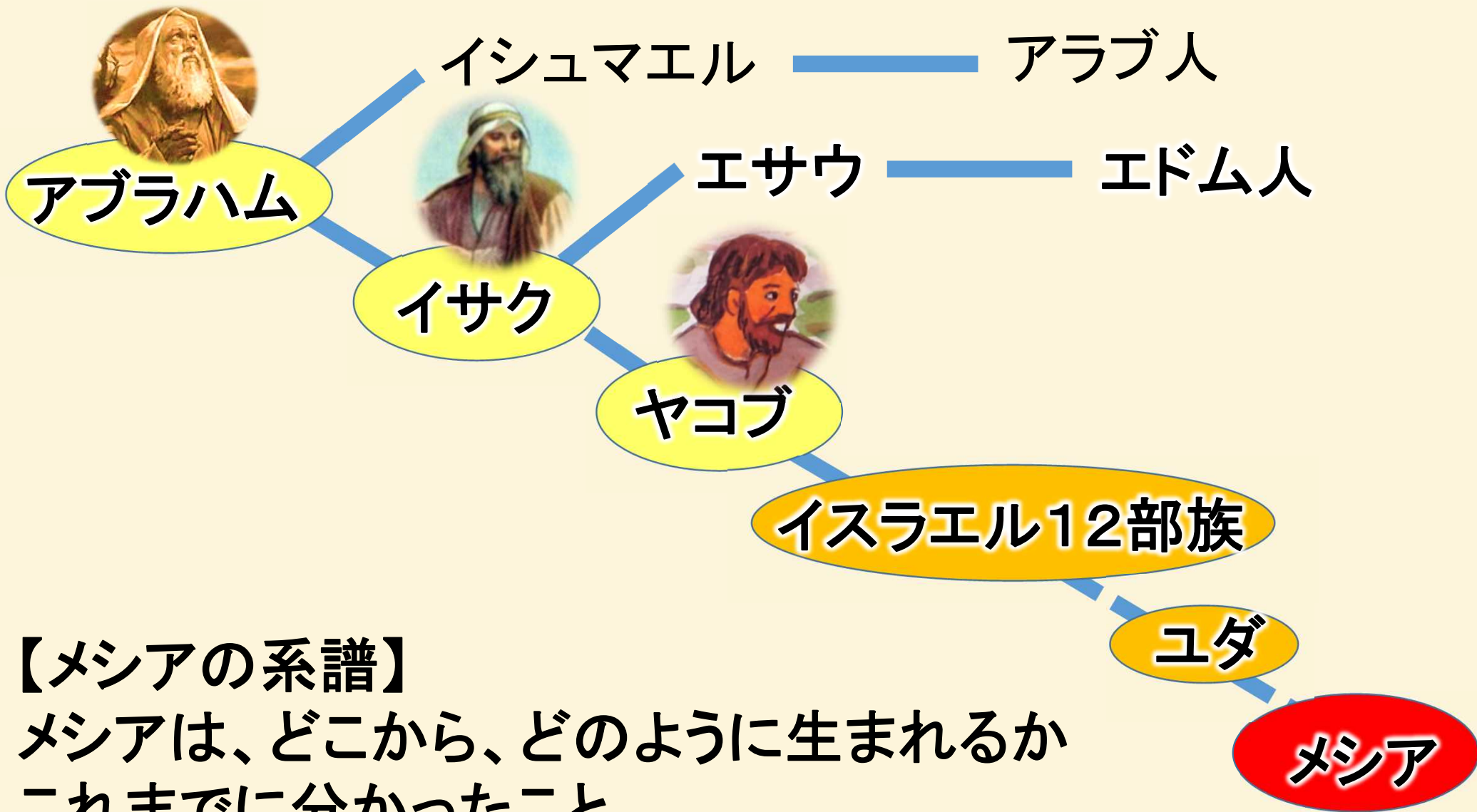


【予告された400年の奴隷の苦難】 創15:13～14

「あなた(アブラハム)の子孫は、自分たちのものではない国で寄留者となり、彼らは奴隷とされ、四百年の間、苦しめられよう。しかし、彼らの仕えるその国民を、わたしがさばき、その後、彼らは多くの財産を持って、そこから出て来るようになる。」

- およそ150年後、数奇な運命を経て、4代目のヨセフは、エジプトで宰相となった。
- 三代目のヤコブは、大飢饉を逃れ、一族を連れて、エジプトへ移り住んだ。
- 豊かなエジプトの地で、奴隷の苦難を経ながらも、イスラエルは増え、民族として成長していった。

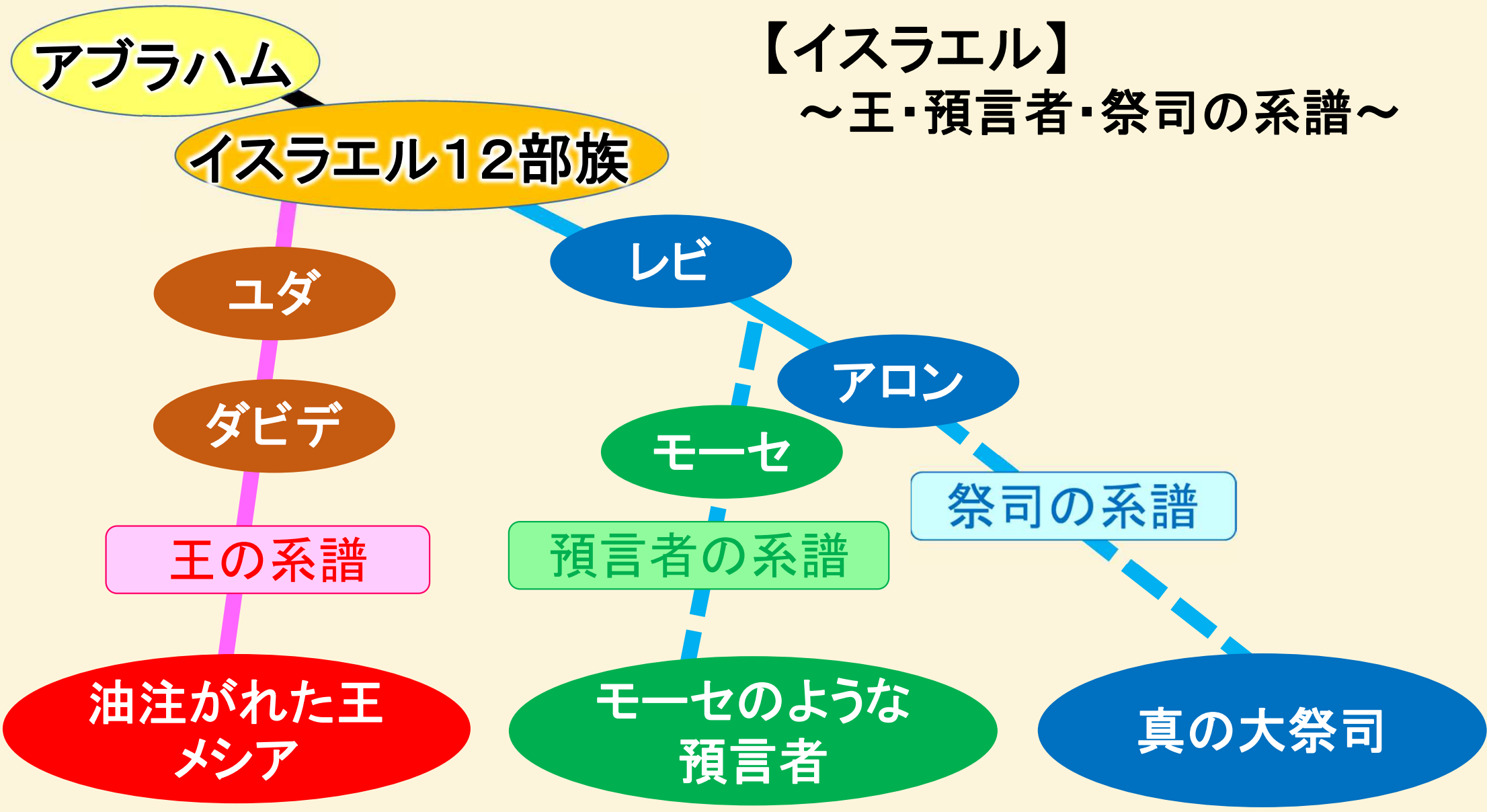




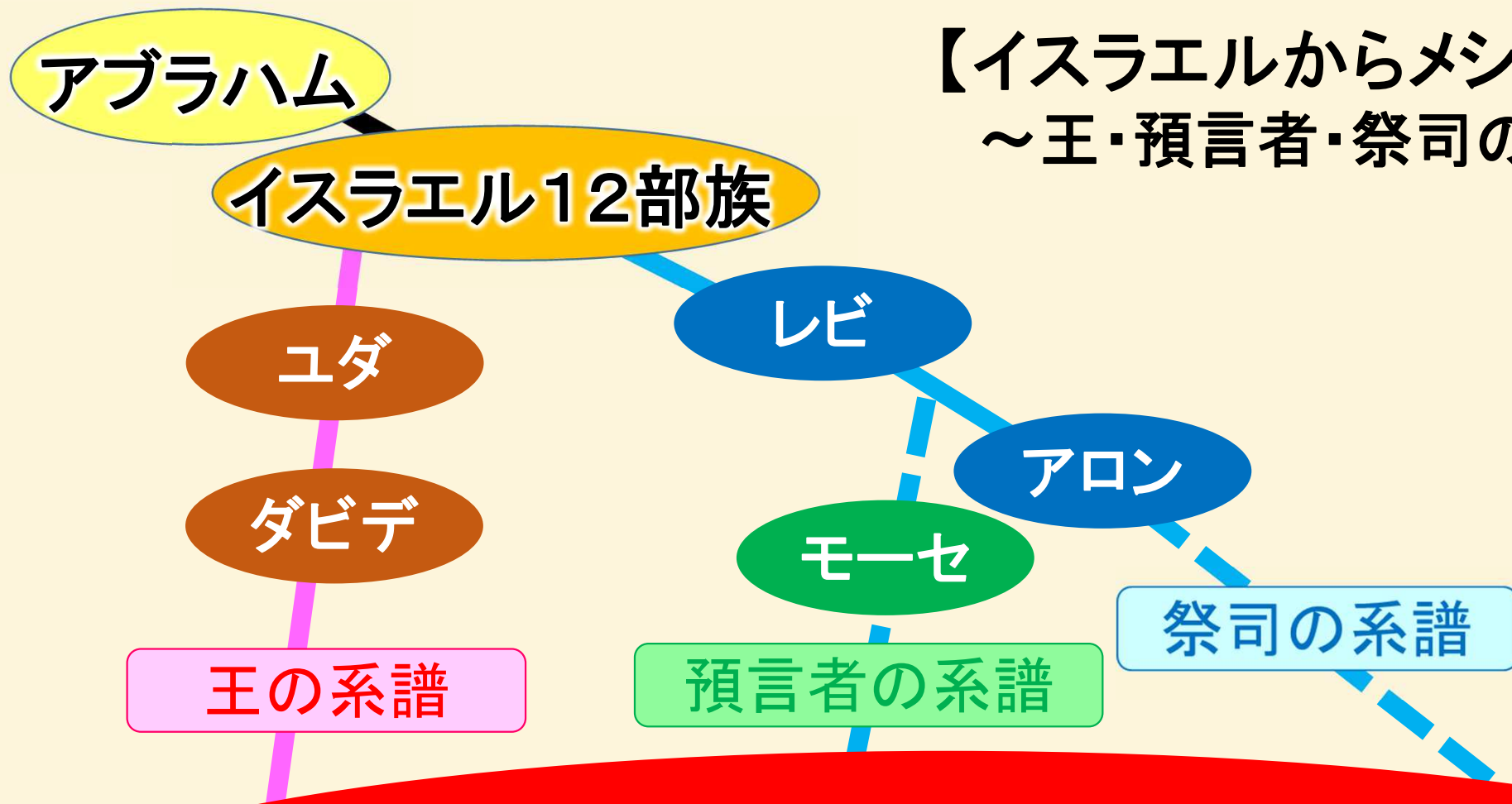
【メシアの系譜】

メシアは、どこから、どのように生まれるか
これまでに分かったこと。

【イスラエル】
～王・預言者・祭司の系譜～



【イスラエルからメシアへ】
～王・預言者・祭司の系譜～



アブラハム

イスラエル12部族

ユダ

レビ

アロン

ダビデ

モーセ

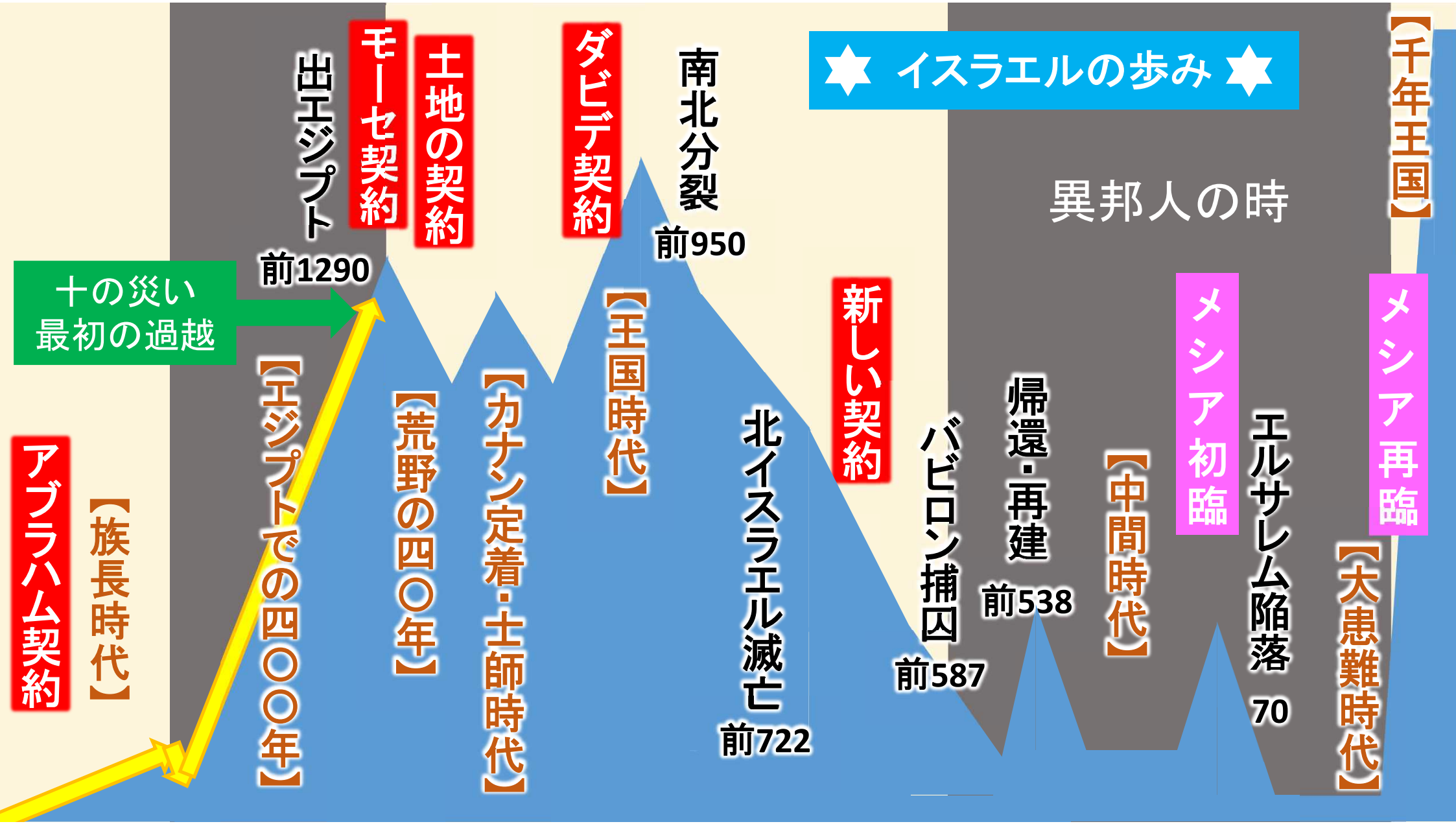
祭司の系譜

王の系譜

預言者の系譜

油注がれた王メシア

★ イスラエルの歩み ★



異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂 前950

ダビデ契約

【カナン定着・士師時代】

【荒野の四〇年】

【エジプトでの四〇〇年】

アブラハム契約

【族長時代】

十の災い 最初の過越

出エジプト 前1290

モーセ契約

土地の契約

【モーセの生涯】 誕生～40歳～80歳

- ヘブル人の男子をナイルに投げ込めと命じたパロ。
- モーセは、籠に入れられ、エジプトの王女に拾い上げられ、養子となり、王宮で育てられた。
- しかし、モーセは、40歳にして、エジプトを追われ、40年間で荒野で羊飼いとして過ごした。
- 80歳のモーセに神が現れ、イスラエルのリーダーとして召し出し、「わたしはある」という御名を告げた。
- 「イスラエルを去らせよ」という主の命をパロは拒み、エジプトに、次々と災いが下った。



0~40歳

奴隸の子として誕生

王の子として成長

逃亡者に 40才

ミディアン人の娘チツポラと結婚

40~80歳

荒野での羊飼生活

召命 80才

十の災い

出エジプト

80~120年

モーセ契約

民の反抗

荒野の四〇年

土地の契約

召天

【モーセの生涯】

【災いにすら示された神の秩序】 3回×3セット +1(最後の災い) =10

- ①血
 - ②かえる
 - ③ぶよ(害虫)
- (呪法師も模倣)

- ・エジプト全土
- ・煩わしいもの
- ・アロンの手

- ④あぶ(昆虫)
- ⑤家畜の疫病
- ⑥腫瘍

- ・エジプト人のみ
- ・苦痛なもの
- ・神の手

- ⑦雹(ひょう)
- ⑧いなご
- ⑨暗闇
- ⑩初子の死

- ・エジプト人のみ
- ・悲痛なもの
- ・モーセの手

★各セットのパターン★

- ①モーセが朝、パロの前に立つ
 - ・【警告あり】
- ②モーセがパロの前に立つ(時間は不明)
 - ・【警告あり】
- ③モーセはパロの前に立たない。
 - ・【警告なし】

【十の災いで裁かれたのは、エジプトの数百ある偶像の神々】



【拒み続け、かたくなにされたパロの末路】 出10:28～29
しかし、【主】はパロの心をかたくなにされた。*パロは彼らを行かせようとはしなかった。

パロは彼に言った。「私のところから出て行け。私の顔を二度と見ないように気をつけろ。おまえが私の顔を見たら、その日に、おまえは死ななければならない。」

モーセは言った。「結構です。私はもう二度とあなたの顔を見ません。*」

- * 拒み続けた結果、回帰不能点を越えてしまったパロ。
悔い改めの機会が、完全に取り去られる時が来る。
- * 交渉の機会は、もう与えられないということ。
- パロには、もはや、最後の災いを逃れる術はなくなった。



くだされる
最後の災い

過越祭(すぎこし)

I . 最後の災いの予告

出エジプト記11章



【救いと裁きの分水嶺】 出11:1～3

【主】はモーセに仰せられた。「わたしはパロとエジプトの上になお一つのわざわいを下す。そのあとで彼は、あなたがたをここから行かせる。彼があなたがたを行かせるときは、ほんとうにひとり残らずあなたがたをここから追い出してしまおう。

さあ、民に語って聞かせよ。男は隣の男から、女は隣の女から銀の飾りや金の飾りを求めるように。*」

【主】はエジプトが民に好意を持つようにされた。* モーセその人も、エジプトの国でパロの家臣と民とに非常に尊敬されていた。*



* アブラハムへの預言(創15:13～14)の成就。

➡ 400年の奴隷労働の対価。後に幕屋建設の材料となる。

* 9つの災いを経てエジプトは、モーセに畏敬の念を抱いていた。

■ あらかじめモーセに告げられていた、最後の災いが告げられた。

【初子の死の予告】出11:4～6

モーセは言った。「【主】はこう仰せられます。

『真夜中ごろ、わたしはエジプトの中に出て行く。

エジプトの国の初子*は、王座に着くパロの初子から、ひき臼のうしろにいる女奴隷の初子、それに家畜の初子に至るまで、みな死ぬ。

そしてエジプト全土にわたって、大きな叫びが起こる。このようなことはかつてなく、また二度とないであろう。』

* **初子** ...民族の血統は長子によって保たれた。

⇒長子の中に、父の命が生き続けている、という理解。

(パロの長子は、最高神の地位を継承する存在。)

■ かけがえのない初子、すべてが打たれることになる。

すべての人は罪人であり、誰も神の裁きを免れ得ない!!



【イスラエルへの神の憐れみ・パロとの決別】出11:7～8

しかしイスラエル人に対しては、人から家畜に至るまで、犬も、うなりはしないでしょう。* これは、【主】がエジプト人とイスラエル人を区別されるのを、あなたがたが知るためです。あなたのこの家臣たちは、みな、私のところに来て伏し拝み、『あなたとあなたに従う民はみな出て行ってください』と言うでしょう。私はそのあとで出て行きます。」こうしてモーセは怒りに燃えてパロのところから出て行った。*



最後まで拒んだパロに最後の災いが

神の一方的な恵みが、イスラエルを救う

- * 犬すら沈黙し、イスラエルを妨げるものは何もなくなる。
- * 10章の最後からここまでが、パロへの最後の通告。
- 最後の災いが下された結果、かたくなに拒んだエジプトはむしろ、出て行ってくれとイスラエルに懇願するようになる。

【エジプトの招いた結末】出11:9～10

【主】はモーセに仰せられた。「パロはあなたがたの言うことを聞き入れないであろう。それはわたしの不思議がエジプトの地で多くなるためである。*」

モーセとアロンは、パロの前でこれらの不思議をみな行った。しかし【主】はパロの心をかたくなにされ、パロはイスラエル人を自分の国から出て行かせなかった。

- * エジプトが主を拒んだことで、数々の奇跡が起こされ、結果として、エジプトもイスラエルも体験的に知った。
⇒ “主のような方は、他にはいない”と!!

■ 主を知る二つの道がある。

主に従い、恵みによって神を知るか？

主に逆らい、裁きによって神を知るか？



十番目の災い

Ⅱ. 過越祭 十番目の災い 出エジプト

出エジプト記12章



【過越の犠牲の規定】 出12:1~5

▼12:1【主】は、エジプトの国でモーセとアロンに仰せられた。
「この月をあなたがたの月の始まり*とし、これを
あなたがたの年の最初の月とせよ。」

*ニサンの月 ...3~4月頃。

イスラエルの始まり 出エジプトが 暦の始まりに!!

▼「12:5 あなたがたの羊は傷のない一歳の雄でなければ
ならない。*」

*究極的に、人類の罪を贖うメシアを指す。

▼12:6あなたがたはこの月の十四日までそれをよく見守る。*

*吟味する ...傷もシミもないことをしっかり確認する。

⇒メシアは、神殿で敵対者の議論を退け、
全く罪のない方であることを証明された。

過越は、来たるべきメシアの影



【イスラエルの最初の過越・まとめ】 出12:1～28

- ニサン(初月)の14日に羊を屠る。
- 羊の血をヒソプの枝で、家の門柱とかもいに塗る。
(きよめに用いる葉)
- その夜に、肉を、種を入れないパンと苦菜と共に食べる
- 肉は必ず焼いて、その日の内に食べる。
- 出発の準備をし、立ったまま急いで食べる。

- 主は、エジプト中の初子を内、すべての神々を裁く。
- 血の塗られた家を、滅びの御使いは素通りする。
イスラエルは、神の怒りを過ぎ越す。

- 約束の地でも、子孫たちも、過越を守る。
出エジプトを記念して、永遠に守られる祭りとなる。



【種なしパンの祭り(除酵祭)の規定・まとめ】 出15~20

■ 過越祭後の7日間。家からすべてのパン種*を取り除く。
(*パン種は罪の象徴)

⇒ ニサン(初月)の14日夕から21日夕まで。
(※過越祭を含めると8日間)

■ 1日目と7日目に聖なる会合(集会)を開く。

⇒ この間の労働は、調理以外禁止。

■ 主による「イスラエル解放の日」として、永遠に祝われる

⇒ エジプト脱出後の7日間を覚える。

■ イスラエルの中にいる外国人にも適用される。

■ どこにいても、この除酵祭を守らなければならない。

▼「あなたがたが住む所ではどこでも、種を入れないパンを食べなければならない。出12:20」

除酵祭は、
神の解放を覚える
きよめの帰還



十番目の災い・初子の死

出12:29～30

真夜中になって、【主】はエジプトの地のすべての初子を、王座に着くパロの初子から、地下牢にいる捕虜の初子に至るまで、また、すべての家畜の初子をも打たれた。

それで、その夜、パロやその家臣および全エジプトが起き上がった。そして、エジプトには激しい泣き叫びが起こった。それは死人のない家がなかったからである。

【十番目の災い・初子の死】 出12:29～32

パロはその夜、モーセとアロンを呼び寄せて言った。「おまえたちもイスラエル人も立ち上がって、私の民の中から出て行け。おまえたちが言うとおりに、行って、【主】に仕えよ。」

おまえたちの言うとおりに、羊の群れも牛の群れも連れて出て行け。そして私のためにも祝福を祈れ。」

■最後まで命令口調のパロ。

悔い改めはなく、心は、かたくななまま。

■こうして、主の預言は完全に成就された。



【出エジプト】 出12:33～38

- 死を恐れたエジプトは、強制的にイスラエルを追い出した。こねたパンを発酵させる暇もなかった。(種なしパンの由来)
- アブラハムへの預言通り、イスラエルは、エジプトから400年の奴隷労働の対価に、多くの金銀を得て旅だった。

- ▼ 12:37 イスラエル人はラメセスから、スコテに向かって旅立った。幼子を除いて、徒歩の壮年の男子は約六十万人。*
- ▼ 12:38 さらに、多くの入り混じって来た外国人*と、羊や牛などの非常に多くの家畜も、彼らとともに上った。

* 20歳以上の男子60万人。総勢200万人ほどか。

* 奴隷だったセム系の人々か？

...後に、荒野で様々な問題を引き起こす発端に。



【神の計画】 出12:40～43

▼イスラエル人がエジプトに滞在していた期間は四百三十年であった。四百三十年が終わったとき、ちょうどその日に、*

【主】の全集団はエジプトの国を出た。



* 主が計画された出エジプトは、まさにこの日、この時だった。

■ アブラハムに主が告げられたのは、400年の奴隷生活。
若き日のモーセは、イスラエルの400年が迫ったことを意識していたかもしれない。

■ 実際には、さらに30年が過ぎて、モーセが80歳の時だった。

人は、神の時の詳細を 事前に知ることはできない。
主ご自身が、時を決め、ことを成し遂げられる。

【繰り返し命じられる過越祭・付加規定】 出12:43～44

▼【主】はモーセとアロンに仰せられた。「過越のいけにえに関するおきては次のとおりである。外国人はだれもこれを食べてはならない。*しかし、だれでも金で買われた奴隷*は、あなたが割礼を施せば、これを食べることができる。」



- * 過越の食事は、血によって贖われたイスラエルのもの。
- * 奴隷は家族の一員であり、過越の食事にあずかった。

- エジプトを出たイスラエルに、多くの外国人が混ざっていた。そのため、主は、改めて過越祭の内容について告げられた。
- 主の恵みを受けるためには、イスラエルのようにならなければならない。それが律法の時代に神が定めたルール。

【すべては、主の計画の通りに】 出12:46

▼ 12:46 ...またその骨(犠牲の羊)を折ってはならない。

⇒メシアの型 “彼の骨は一つも砕かれない”(ヨハ19:36)

▼ 12:48 もし、あなたのところに異国人が在留していて、【主】に過越のいけにえをささげようとするなら、彼の家の男子はみな割礼を受けなければならない。そうしてから、その者は、近づいてささげることができる。

■ 外国人であっても、主を信じて割礼を受けることで、イスラエルの一員、神の民となることができた。

▼ 12:50 イスラエル人はみな、そのように行った。【主】がモーセとアロンに命じられたとおりに行った。

12:51 ちょうどその日に、【主】はイスラエル人を、集団ごとに、エジプトの国から連れ出された。



約束を守られた主に、
イスラエルは忠実に従った。

エジプト脱出

Ⅲ. 初子の贖い
出エジプト

出エジプト記13章



【過越の再確認①】 出13:1~4

▼【主】はモーセに告げて仰せられた。「イスラエル人の間で、最初に生まれる初子はすべて、人であれ家畜であれ、わたしのために聖別せよ。それはわたしのものである。」

■ イスラエルは、主によって贖われ、奴隷から解放された。この過越を改めて覚えるよう、モーセは再び告げる。

▼ 13:3 モーセは民に言った。「奴隷の家であるエジプトから出て来たこの日を覚えていなさい。【主】が力強い御手で、あなたがたをそこから連れ出されたからである。種を入れたパンを食べてはならない。

13:4 アビブの月のこの日にあなたがたは出発する。

■ 過越は、“イスラエルの解放“を 永遠に記念する。



主の贖いを覚え

身をきよめよ

【過越の再確認② イスラエルの子孫への命令】 出13:5～10

▼【主】があなたに与えるとあなたの先祖たちに誓われたカナン人へテ人、エモリ人、ヒビ人、エブス人の地、乳と蜜の流れる地に、あなたを連れて行かれるとき、次の儀式をこの月に守りなさい。

■ 約束の地に入る、イスラエルの子孫へも、過越が命じられた。

▼13:8～10 その日、あなたは息子に説明して、『これは、私がエジプトから出て来たとき、【主】が私にしてくださったことのためなのだ』と言いなさい。これをあなたの手の上のしるしとし、またあなたの額の上の記念としなさい。*

13:10 あなたはこのおきてを年々その定められた時に守りなさい。

* 主の解放の業を、常に覚えているようにということ。

文字通り、聖句(申11:13～22,6:4～9,出13:1～16)の入った小箱を身につけている、正統派ユダヤ人の姿⇒



【初子の贖い】 出13:11 ~16

▼13:11~12【主】が、あなたとあなたの先祖たちに誓われたとおりに、あなたをカナン人の地に導き、そこをあなたに賜るとき、すべて最初に生まれる者を、【主】のものとしてささげなさい。*

* 動物の初子は屠り、人は献金によって贖う。

■ イスラエルの人も家畜も、すべての初子は主のもの。
主は、エジプトの初子を打ってイスラエルを救われた。

▼『【主】は力強い御手によって、私たちが奴隷の家、エジプトから連れ出された。パロが私たちを、なかなか行かせなかったとき、【主】はエジプトの地の初子を、人の初子をはじめ家畜の初子に至るまで、みな殺された。』



“主のものを
主に返す”
献げ物の原点

【エジプト脱出の経路】 出13:17～18

さて、パロがこの民を行かせたとき、神は、彼らを近道であるペリシテ人*の国の道には導かれなかった。神はこう言われた。「民が戦いを見て、心が変わり、エジプトに引き返すといけない。」

それで神はこの民を葦の海に沿う荒野の道に回らせた。イスラエル人は編隊を組み、エジプトの国から離れた。

* ペリシテ人 ...地中海沿いで力を誇っていた民族。

後に、イスラエルを苦しめることに。

■ 海沿いに進めば、イスラエルまでは10日の道のり。

しかし、イスラエルがペリシテ人を恐れて、心変わりしないように、主は南下するルートをとらせた。



【ヨセフの遺骸と共に】 出13:19～20

モーセはヨセフの遺骸を携えて来た。それはヨセフが、「神は必ずあなたがたを顧みてくださる。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上らなければならない*」と言って、イスラエルの子らに堅く誓わせたからである。こうして彼らはスコテから出て行き、荒野の端にあるエタムに宿営した。

- * イスラエルは、400年前のヨセフの遺言を記憶していた。
- エジプトの宰相となり、イスラエルの危機を救ったヨセフ。その遺体はミイラにされ、民の中に置かれ続けた。
- その存在は、奴隷の苦しみの中で、イスラエルの希望であり続けたことだろう。モーセが、ヨセフの遺骸を携えて、今まさに、イスラエルは、約束の地へと旅立つ!!



神の時は
必ず来る!!

【雲の柱・火の柱】 出13:21～22

【主】は、昼は、途上の彼らを導くため、雲の柱*の中に、夜は、彼らを照らすため、火の柱の中にいて、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。昼はこの雲の柱、夜はこの火の柱が民の前から離れなかった。

* 雲の柱、火の柱 ...神の栄光(シャカイナグローリー)。

- ・雲の柱は、道先案内人となり、荒野の日陰を与え、
- ・火の柱は、夜、暗闇の中の民を照らし出した。

⇒ 主ご自身が、イスラエルに臨在され、守り、導かれた。

- イスラエルの先頭に、主が現れ、民を導かれて行った。
次回、14章、葦の海で、空前の奇跡が起こる!!





IV. まとめと適用

メシアの影である過越
主の救いの御業を覚えよう

【出エジプト記の最大のテーマを確認しよう!!】

■ 主を知ること

“わたしはある” という、ヤハウェなる神を、体験的に知ること。
⇒「知る」、とは、「男が女を知る」と同義。

■ 体験的に知り、身につけるために、必要なのは、反復。

(例) 九九を覚えた時のように。

⇒同じ規定、似た体験が、なんども繰り返され、
モーセと、イスラエルは、身をもって、神を知らされていく!!

“主は、生きておられる”

“主のような方は、ほかにはおられない”

【過越祭が示す、メシア、イエス・キリストの型】

■ 過越祭全体が、来たるべきメシア、イエス・キリストを示す影。

- ① 傷もなく、しみもない、羊 ⇒ 罪なきキリスト
- ② 屠られた羊 ⇒ キリストの十字架の犠牲
- ③ 塗られた血 ⇒ キリストの血が、罪を贖う
- ④ 種入れぬパン ⇒ 罪なきキリストのからだ

■ 過越祭と、キリストの十字架、重なるタイムスケジュール。

- ① 羊の吟味 ⇒ 敵対者からの最後の論戦
- ② 過越の食事 ⇒ 弟子たちとの最後の晩餐
- ③ 祭司のための子羊の犠牲 ⇒ 十字架にかけられる

【キリストがもたらした、真の過越の意味とは？】

■ エジプトにおける、イスラエルの過越は、最後の災いを過ぎ越すもの。

■ キリストの過越は、神の怒りを過ぎ越すもの。

⇒ すべて的人是、罪を負い、滅びに定められている。

人にくだるべき、神の怒りの杯を、主イエスが飲み干された。

「わが父よ。できますならば、この杯をわたしから過ぎ去らせてください。
しかし、わたしの願うようにはなく、あなたのみこころのように、なさってください。マタイ 26:39」

■ 主イエスが、私の罪のために十字架にかけられ、死んで葬られ、三日目に死を打ち破って復活された。この福音を信じて救われる。

今も生きておられる 過越の主イエスを信じよう!!

【十番目の災い・打たれた初子が教えるもの】

■ すべての初子は、神のものである。

⇒ 私たちの最も大切なものは、すべて神のものである。

■ 私は神のものである。 ⇒ この真実を拒むことが罪の根源。

私は神の者ではないと、主を拒む者は、主に拒まれる。

■ 神は、イスラエルに、「あなたは、わたしのものである」と、宣言された。

ただ、アブラハムへの、一方的な憐れみの約束のゆえに。

⇒ モーセも、イスラエルも、ただ神の言葉を信じて救われた。

■ あなたは、誰のものだろうか？

【激変する世界の中で】

■ 世界各地の大都市で感染爆発が発生。

東京、シンガポール、ソウル...、押さえ込んできた都市でも懸念が高まる。

■ 「あなたの家族に犠牲者が出るだろう」 明確に告げる世界の指導者たち。
私たちは、ウイルスに対して、死に対して、全く無力であると認めよう。

■ わたしも、あなたも、大切な誰かをなくすかもしれない。

自分自身の命をも失うかもしれない。その現実を直視しよう。

感染者の死には立ち会えない。最後の機会は、ないかもしれない。

■ 何より伝えるべき福音を、今、大切な人々に伝え、伝え続けていこう。
この災厄を生き延びた人々にも、真実の救いと癒やしが必要だから。

「天のお父さま。

わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

主の怒(いかり)から、人々を救(すく)ってください。

あらゆる手段(しゅだん)をもちいて、福音(ふくいん)を伝えるものとして、

わたしたちを、ここからつかわしてください。どうか、もちいてください。

主(しゅ)イエス・キリストの 御名(みな)によって 祈ります。

アーメン」